

FOMCはハト派の内容で市場はリスクオンに



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① FOMCは24年に複数回の利下げ示唆

FRB（米連邦準備制度理事会）は12～13日に開催したFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利を3会合連続で据え置きました。同時に発表した参加者による経済見通しでは、24年に複数回にわたり金利を引き下げるとの予測が示されました（右上図）。FOMCで追加利上げ（予測中央値）の見通しが示されなかったのは21年3月以来です。

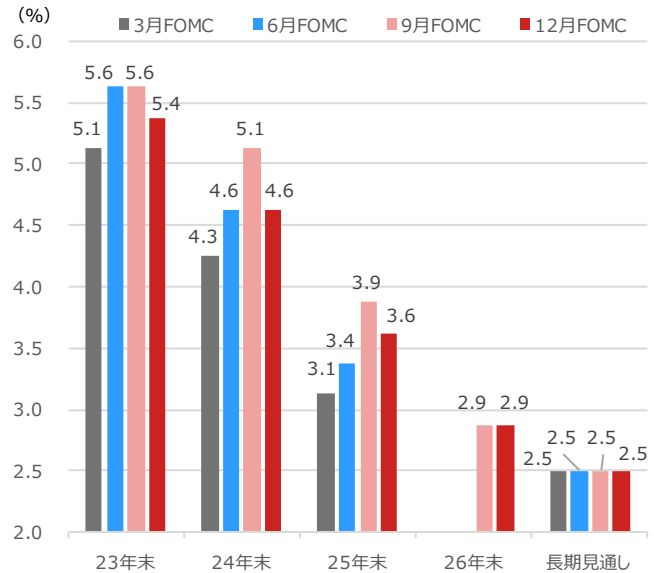
今回の見通しでは24年について合計で0.75%ポイントの利下げを見込む内容となり、9月時点の予測よりも利下げペースが急となりました（同図）。会合後に記者会見をしたパウエル議長は、データ次第での追加利上げの可能性を残した一方、今回の会合で今後の利下げについて議論したことを明らかにしました。

ポイント② ハト派内容のFOMC受けリスクオンに

今回のFOMCは従来よりもハト派的な内容だったこともあり、13日の米金融市場では、米国債利回りが大幅に低下（価格は上昇）し、ダウ工業株30種平均が22年1月以来、約2年ぶりに史上最高値を更新するなど、市場はリスクオンで反応しました。

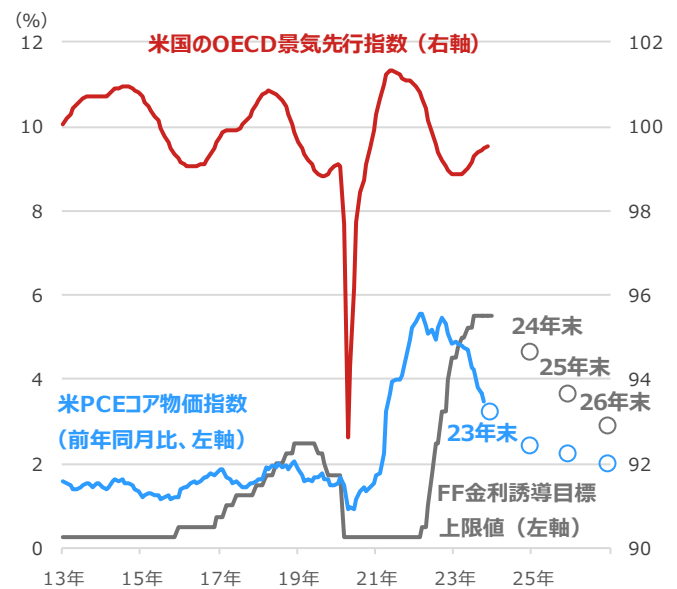
今回のFOMCでFRBが示した最新の経済見通しでは10-12月期の実質GDP（国内総生産）成長率について24年が1.4%、25年が1.8%と前回見通し（1.5%、1.8%）並みの予測が示され、米経済がソフトランディングする可能性を示唆したといえます。また、10-12月期の米PCE（個人消費支出）コア物価指数も23年が3.2%と前回の3.7%から大幅に下方修正され、24年以降もインフレが鈍化していくとの見方が示されました（右下図）。緩やかな「インフレ鈍化」と「経済成長」が併存する「適温経済」が続くとみられることは、米金融市場の先行きを見る上でサポート材料といえそうです。

FOMC参加者金利見通し（中央値）の4時点比較



期間：2023年末～2026年末、年次、および長期見通し
 ・FOMC参加者金利見通しは2023年3月FOMC、6月FOMC、9月FOMC、12月FOMCで示された目標レンジ中央値
 ・12月FOMCの23年末は実績値
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米国のOECD（経済協力開発機構）景気先行指数・FF金利誘導目標上限値・米PCEコア物価指数



期間：（米国のOECD景気先行指数）2013年1月～2023年11月、月次
 （FF金利誘導目標上限値）2013年1月末～2023年12月13日、月次
 （米PCEコア物価指数）2013年1月～2023年10月、月次
 ・FF金利はフェデラルファンド金利
 ・○印は12月FOMCで示された24年末～26年末のFOMC参加者予想中央値（米PCEコア物価指数は10-12月期の前年同期比、23年末～26年末）
 （出所）BloombergおよびFRBより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。